

被災地におけるスポーツ観戦意図と生活復興感に関する研究 -Yクラブを事例として-

スポーツクラブマネジメントコース
5019A312-0 林 悠太

研究指導教員：間野 義之 教授

I. 背景

東日本大震災から8年が経過し、インフラの整備や避難者の減少など改善しているものの、被災者の復興・生活再建は途上であり、中でも「心の復興」が課題となっている。

一方、スポーツ事業を通じた震災復興の動きも多くみられることから、スポーツが被災地の復興に向けて期待されていることが窺える。しかし、スポーツが被災した地域住民の心理的影響に対してどのような効果を与えるのか、その検証は十分とは言えず、詳細な検討が必要である。そこで本研究では「プロスポーツチームへの興味・関心」と「復興感」という2つの事柄に関し、その関係性の考察をすすめる。

II. 研究の目的

本研究では、被災地住民における「地元プロスポーツチームへの興味・関心」と「生活復興感」の関係性について明らかにすることを目的とし、以下の仮説モデルを設定し検証を行う。

仮説1： 地元プロスポーツチームへの興味・関心は震災体験の評価に正の影響を及ぼす。

仮説2： 地元プロスポーツチームへの興味・関心は生活復興感に正の影響を及ぼす。

III. 研究方法

1. 調査対象者

調査対象者は地域サッカーリーグに所属するYクラブの本拠地である東日本大震災で被害を受けた日本の東部、X市の住民（人口約30万人）とした。非観戦者のサンプル収集のため、社会調査モニターの回答によ

るインターネット調査を行い、調査は2019年10月上旬に実施した。

2. 調査内容・項目

調査項目は人口統計学的要因、生活復興感、生活再建7要素（つながり、まち）・復興過程感（震災体験の評価、重要他者との出会い）、Yクラブへの興味・関心に関する項目である。本研究においては「Yクラブへの興味・関心」を「観戦意図」で代替することにより、地域住民のYクラブへの興味・関心の高低を広く捉えることが可能となる。よって「プロスポーツチームへの興味・関心」を捉える指標として観戦意図を採用することとした。

3. 分析方法

人口統計学的要因と生活復興感との関連については χ^2 検定、Mann-WhitneyのU検定、および相関分析により従属変数と各変数の関連を単変量分析し、その分析結果と仮説に基づき、多変量解析を行うという手順を踏んだ。多変量解析には階層的重回帰分析を用いた。調査から得られたデータをもとに、IBM SPSS Statistics 26を用いて全ての分析を行った。

IV. 結果

サンプル全体では、男性52.6%、女性47.4%、各年代別では10-20代:10.6%、30代:17.0%、40代:29.9%、40代:29.9%、50代:24.1%、60代以上:18.4%で平均年齢は46.6歳となった。X市の住民基本台帳統計（2015年）によれば、同市の住民の性別比は男性49%・女性51%、平均年齢は約48.0歳で、本調査の回答者は男性の比率が高いものの平均年齢の差異は

1.4歳に留まっており、X市の住民の基本属性を一定程度反映したものと見える。

次に生活復興感と観戦意図との関連については、高群・低群間において有意差が認められた(表1)。また、観戦意図の高群・低群間において生活復興感の全項目中央値および各項目値を比較した。Mann-WhitneyのU検定の結果、各項目群(14項目)のうち充実度4項目、満足度2項目の計6項目において両群間の有意差が認められた。

表1 生活復興感と観戦意図の関連

	M	平均ランク	T	U	Z	p値	
Yクラブへの観戦意図	低群 (n=202)	2.89	163.78	33083.0	12580.0	-2.342*	.019
	高群 (n=146)	3.00	189.34	27643.0			

*p < .05

次に生活復興感と生活再建7要素のうち、本研究で採用した項目(まち、つながり)と生活復興過程感(重要他者との出会い、震災体験の評価)との関連については(表2)、「つながり」と「震災体験の評価」に相関があることが確認された。

表2 生活復興感と生活再建7要素および生活復興過程感との関連

	1	2	3	4	5
1 生活復興感	—				
2 まち	.217*	—			
3 重要他者との出会い	.327**	.089	—		
4 つながり	.411**	.244**	.317**	—	
5 震災体験の評価	.512**	.241**	.439**	.253**	—

**p < .01

また、仮説1を検証するために観戦意図と震災体験の評価の関係を階層的重回帰分析によって明らかにした(表3)。モデル2では震災体験の評価に対して「つながり」、「観戦意図」が有意な正の影響を与えている。よって、仮説1は支持されたといえる。

表3 震災体験の評価を従属変数とする階層的重回帰分析の結果

投入変数	モデル1	モデル2
	β	β
統制変数	全壊・流出	-.030
	大規模損壊・半壊	.012
	一部損壊	-.043
	被害なし	—
婚姻	既婚	.224***
	未婚	—
独立変数	Yクラブへの興味・関心	.111*
	生活再建7要素	.228***
R ² (調整済みR ²)		.052 (.041)
		.119 (.103)

*p < .05, **p < .01, ***p < .001

仮説2を検証するために、階層的重回帰分析を行った(表4)。モデル1~3の分析結果から、モデル1からモデル2では「観戦意図」と生活復興感の間に有意な正の影響

を及ぼしているが、モデル2から3では「観戦意図」は非有意になり、「つながり」および「震災体験の評価」が生活復興感に有意な正の影響を関係及ぼすことが明らかとなった。さらに、R²値がモデル1・2よりもモデル3の方が高いことから、生活復興感を説明するにはモデル3の妥当性が高いと言える。よって、仮説2は棄却された。

表4 生活復興感を従属変数とする階層的重回帰分析の結果

投入変数	モデル1	モデル2	モデル3
	β	β	β
統制変数	全壊・流出	-.031	-.030
	大規模損壊・半壊	-.121*	-.130*
	一部損壊	-.054	-.063
	被害なし	—	—
婚姻	既婚	.164**	.159**
	未婚	—	—
独立変数	Yクラブへの興味・関心	.120*	.040
	生活再建7要素	—	.363***
生活復興過程感	つながり	—	.416***
	震災体験の評価	—	.416***
R ² (調整済みR ²)		.041 (.030)	.055 (.041)
		.411 (.399)	.411 (.399)

*p < .05, **p < .01, ***p < .001

V. 考察

本研究では、「地元プロスポーツチームへの興味・関心」と「生活復興感」の関係性について可能性は示唆されたが、生活復興感を説明する変数としては十分ではなかったことを表している。今後は「地元プロスポーツチームへの興味・関心」を正確に捉えるためにもプロスポーツチームへの興味・関心を表す他の変数も考慮した調査が必要となる。

VI. 結論

仮説の検証を試みた結果、地元プロスポーツチームへの興味・関心を代替した観戦意図と生活復興感の関係性を示す可能性が示唆された。特に、観戦意図が震災体験の評価を高めることが明らかとなった点は一定の意義があった。地元プロスポーツチームへの興味・関心が被災地域に及ぼす心理的影響の効果として生活復興感に着目し関係性を明らかにしたことは、プロスポーツ振興が被災地域に与える可能性を示すことができた。このことは、自治体において重要な示唆を与えることになる。つまり、被災地において、被災地住民の心理的回復にスポーツの効果が見込めれば、スポーツ施設、またはそれに伴うインフラの整備に関する財源を捻出する一つの根拠となり得る。